

結果：4＝あてはまる 3＝おおむねあてはまる 2＝どちらかといえあてはまらない 1＝あてはまらない

評定：A＝対象の80%以上が肯定 B＝対象の70%以上が肯定 C＝対象の60%以上が肯定 D＝対象の60%未満が肯定

項目	評価指標	評価資料	アンケート結果 (%)					評定	○(自己)評価の分析・考察・◎改善策	学校関係者評価委員からの意見	%
			4	3	2	1	無				
特別活動	学校行事等は、創意工夫を生かし充実している。	教職員	33	58	0	0	8	A	○ 運動会や文化祭など生徒が中心の創意工夫された良い活動であるとの多数の意見をいただいた。生徒も充実感・満足感を感じているが、保護者・生徒の中には、「2」の評価があることも忘れずに取り組んでいきたい。		96%
		生徒	81	11	7	0	0				
		保護者	61	25	4	0	7				
		地域住民									
生徒指導	生徒一人一人にアンケートや教育相談などを実施し、全教職員が協力して、問題の早期発見・早期対応に努めている。	教職員	42	42	8	0	8	A	◎ 地域の方の記述で、「各生徒の個性を生かし、個々の実力を更に伸ばしていく教育に期待したい」とあった。生徒一人一人の様子にしっかりと目を向け、早期発見・早期対応を心掛けたい。		92%
		生徒	67	26	7	0	0				
		保護者	21	50	14	0	11				
		地域住民	46	54	0	0	0				
基本的な生活習慣	基本的な生活習慣の育成に努めている。 進んで気持ちのよいあいさつができています。	教職員	50	42	8	0	0	A	○ 挨拶については、地域の方、保護者から、「どの生徒も元気に挨拶ができて気持ちよいです」との意見をいただいている。今後も引き続き挨拶の重要性について話をしていきたい。		81%
		生徒	56	30	15	0	0				
		保護者	25	39	29	4	0				93%
		地域住民									
進路指導	将来の夢や希望について、話したり、考えたりの機会を設けている。	教職員	25	50	8	0	17	B	○ 生徒の「2」「1」の評価が35%あり、「将来についてあまり考えていない」のが現状である。地域の人材の活用を積極的にを行い、キャリア教育を充実させていく必要がある。		76%
		生徒	44	22	26	7	0				
		保護者	29	43	21	4	0				
		地域住民									
学校保健・安全	非常時に適切に対応できるような訓練や指導の充実に努めている。	教職員	42	42	8	0	8	A	○ 給食の非常食献立、避難訓練など防災教育に今後も継続して取り組んでいく。		97%
		生徒	81	19	0	0	0				
		保護者	36	57	4	0	0				
		地域住民	62	38	0	0	0				
特別支援・教育	コーディネーターを中心に、特別支援体制を整え、協力して支援している。	教職員	17	67	8	0	8	A	○ 評価が低いまたは分からないと回答している保護者が多い。学級PTAなどの機会をとらえて啓発していく必要がある。		83%
		生徒									
		保護者	14	43	18	4	18				
		地域住民									
保護者・地域との連携	保護者や地域の人々とのふれあいを通して、信頼関係を確立している。 「学校だより」や「学級だより」等の内容は適切である。	教職員	25	67	8	0	8	A	◎ 今年度は、「ふれあい学習会」に地域の方も参加してもらえ、保護者の記述では、「地域の方と一緒に人権について話し合えたことが良かった」とあった。また、地域の方の記述では、「地域との絆が強く、快活である」とあった。今後も地域との関係を大いにし、学校からの連絡や情報発信を密にし、信頼関係を高めていく。 ○ 概ね良い評価であった。		90%
		生徒									
		保護者	18	68	11	0	0				
		地域住民									
施設設備	校舎内外の美化に努めている。	教職員	33	58	0	0	8	A	◎ PTA環境整備では、多くの保護者が毎年参加し学校の美化に協力してくださっている。今後もこのような活動を継続していく必要がある。 ○ 保護者の記述に、「校庭の整備が環境整備だけではどうにもならないように感じるので、不要な物の処分は長に依頼できない物でしようか。」とあった。		99%
		生徒									
		保護者	25	61	0	4	7				
		地域住民	77	23	0	0	0				
		教職員	50	42	8	0	0	A			97%
		生徒	81	15	0	0	0				
		保護者	39	54	4	0	0				
		地域住民	85	15	0	0	0				

項目	評価指標	評価資料	アンケート結果 (%)	評定	○(自己)評価の分析・考察・改善策	学校関係者評価委員からの意見	%
教育目標	「確かな学力の定着と強くてやさしい心の育成」の達成に向けて、具体的に努力している。	教職員	25 58 17 0 0	A	◎ 学校の教育目標達成のための具体的な取組が、まだ伝わっていない部分が多い。保護者や地域住民に理解されるようホームページや学校だよりなどで発信していきたい。		87%
		生徒	///				
		保護者	29 46 18 0 7				
		地域住民	46 31 0 0 23				
学力・学習習慣	基礎・基本の充実を図り、確かな学力の定着・向上に向けて積極的に取り組んでいる。	教職員	33 58 8 0 0	A	◎ 教員・生徒・保護者ともに、学力向上に向けての取組における良い評価が高い。低い評価もあることを忘れず、授業力を向上させていきたい。		94%
		生徒	85 15 0 0 0				
		保護者	21 61 14 0 4				
		地域住民	31 38 0 0 31				
学力・学習習慣	学習習慣・学習態度(家庭学習も含む)の育成に努めている。	教職員	17 67 8 8 0	B	◎ テスト期間以外にも、放課後や昼休みを利用して個別の学習相談や補充学習を実施している。また、朝のドリルの時間を利用して、基礎学力の定着に向けての小テストを実施している。保護者の記述には、「家庭学習を習慣づけるような課題など出してくれているのが良い」とあった。しかし、「12」や「11」の評価があり、家庭学習が定着していない生徒がいる。今後も、クロムブックを活用して家庭学習の定着に向けた課題を工夫していきたい。		73%
		生徒	33 41 19 7 0				
		保護者	11 50 36 4 0				
		地域住民	///				
学習指導	生徒は、発表の仕方や表現力が身に付いている。	教職員	25 67 8 0 0	A	○ 教師・生徒・保護者の評価には、「2」や「1」も見られる。今年度から取り入れたASミーティングを今後も積極的に進めていきたい。		86%
		生徒	59 30 7 4 0				
		保護者	18 61 14 7 0				
		地域住民	///				
学習指導	指導法や指導体制の工夫・改善に努め、分かる授業づくりに取り組んでいる。	教職員	25 58 8 0 8	A	◎ 継続して新学習指導要領の趣旨に沿った指導や評価を研究していく。		94%
		生徒	93 7 0 0 0				
		保護者	32 43 11 4 11				
		地域住民	46 54 0 0 0				
学習指導	学習の充実のために、自然・文化・人など、地域の特色を生かしている。	教職員	33 50 8 8 0	A	◎ ふれあい学習会、歴史学習、職場体験、かんきつ作業体験、卒の苗植えや収穫、青いレモンの宣伝などコロナ禍でも充実した活動を行うことができた。これらすべて地域の方々との協力のおかげである。引き続き地域の特色を生かした学習活動を工夫していく必要がある。そのためにも地域の人材を積極的に活用していく。		91%
		生徒	78 15 0 7 0				
		保護者	43 39 4 0 11				
		地域住民	54 38 8 0 0				
学習指導	教材や教具・教育機器(ICT)等を効果的に活用している。	教職員	33 50 8 0 8	A	○ 教師・保護者の評価には、「2」も見られる。今年度は電子黒板も導入され、更に活用していくために、教員の学び姿勢が不可欠であり、授業力向上に向けて取り組んでいきたい。また、ホームページや学校だよりなどでどのような取組をしているか発信していきたい。		93%
		生徒	78 22 0 0 0				
		保護者	14 54 11 0 21				
		地域住民	///				
心の教育	望ましい人間関係づくりに努めている。	教職員	42 50 8 0 0	A	○ 保護者の記述には、「先生と生徒がしっかりと話ができることが良いと思う」「生徒一人一人に向き合っている」などありがたい言葉があった。しかし、保護者の中には「2」「1」「わからぬ」の評価があることを忘れず、生徒との関わりを大切にしていきたい。		95%
		生徒	85 15 0 0 0				
		保護者	21 57 4 4 11				
		地域住民	///				
心の教育	生徒が命の大切さを実感できる教育の充実に取り組んでいる。	教職員	33 58 0 8 0	A	○ 教職員・生徒ともに高い意識を持って取り組んでいる。		96%
		生徒	89 11 0 0 0				
		保護者	///				
		地域住民	///				
心の教育	人権・同和教育年間指導計画を立案し、実践している。	教職員	50 42 0 0 8	A	◎ 今年度は、人権・同和教育訪問があり、教職員研修、研究授業、ふれあい学習会等、学ぶ機会が多かった。地域の方の記述で、「人権・同和教育は、何かあるからやめるのではなく、日頃から地域の人に話を聞くなどする必要がある。」との御指摘があった。今後も、継続して教職員研修を始めていかなくてはならない。		95%
		生徒	///				
		保護者	43 43 7 0 4				
		地域住民	54 38 8 0 0				
心の教育	生徒は「JRC活動や積極運動に積極的に取り組んでいる。	教職員	17 58 8 0 17	A	◎ 教職員・生徒ともに高い意識をもって取り組んでいる。しかし、マンネリ化してきている。取組を見直し、改善していくべきである。		93%
		生徒	70 26 4 0 0				
		保護者	///				
		地域住民	///				
学校体育	体育の時間や授業タイムなどを通して、体力づくりを進めている。	教職員	25 58 8 0 8	A	○ 生徒は目標を持って意欲的に取り組んでいる。教職員も生徒の良本となる姿で取り組んでいかなければいけない。		92%
		生徒	67 26 4 4 0				
		保護者	57 32 7 0 0				
		地域住民	///				
学校体育	生徒は部活動に意欲的に取り組んでいる。	教職員	50 42 0 0 8	A	◎ 部活動の方針や年間の予定等、各部の保護者会等で相互理解に努める。		95%
		生徒	67 26 4 4 0				
		保護者	57 32 7 0 0				
		地域住民	///				